

創立40周年記念

芦屋室内合奏団 第39回定期演奏会

P. チャイコフスキー 弦楽セレナーデ
A. ウェーベルン 緩徐楽章
J. ラター 弦楽のための組曲
G. タルティーニ トランペット協奏曲 二長調
トランペット独奏 笹川英哉
指揮 酒井睦雄（相愛大学教授）

平成17年 **11月20日** (日) 13:30開演
(13:00開場)

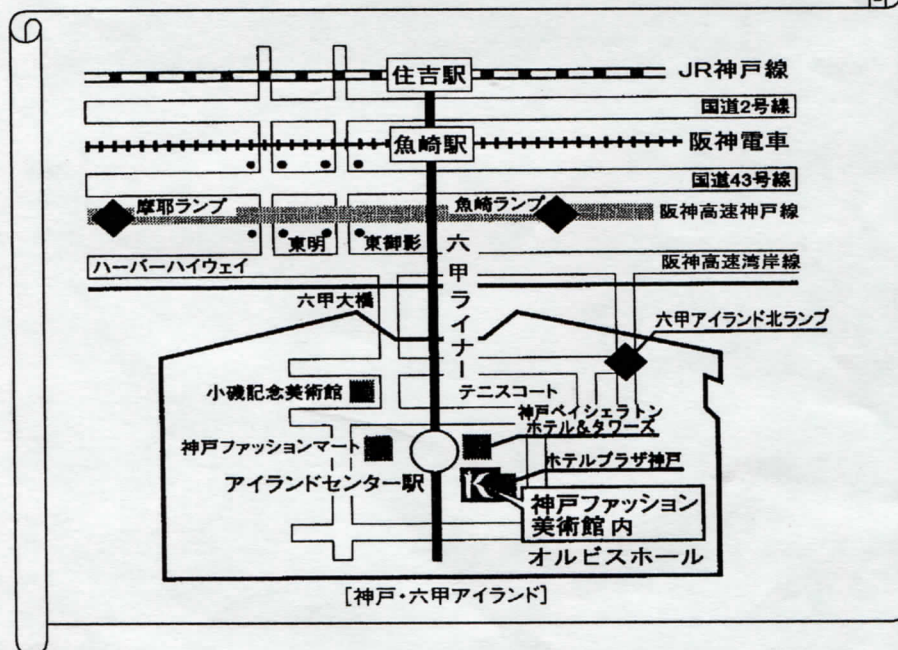
神戸ファッション美術館オルビスホール

❖❖ 神戸・六甲アイランド内 ❖❖

神戸市東灘区向洋町中2丁目9-1 TEL 078-858-0050

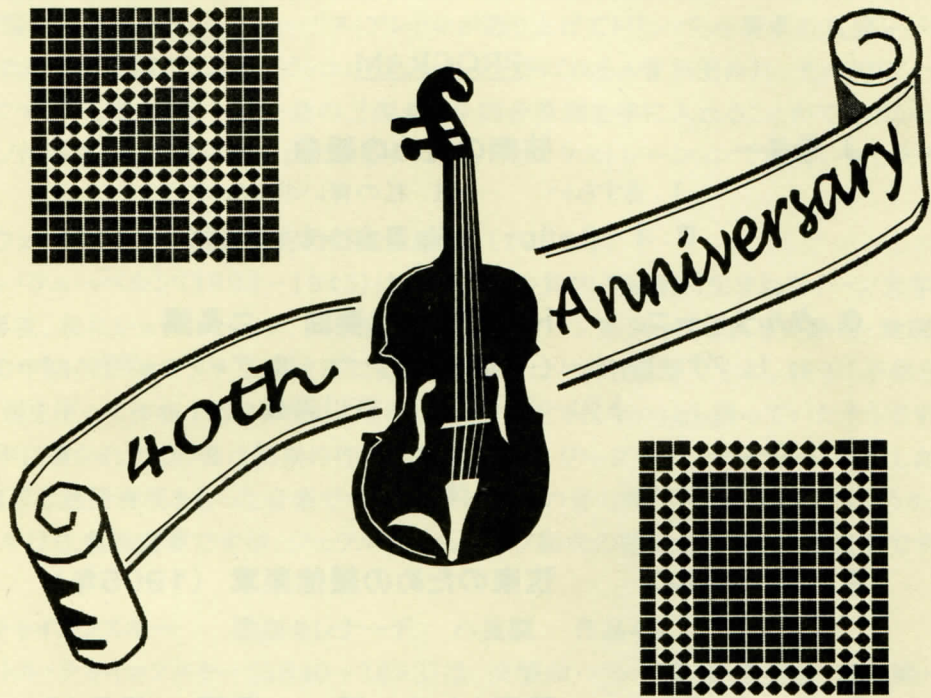
JR「住吉駅」または 阪神「魚崎駅」のりかえ
六甲ライナー「アイランドセンター駅」下車南東すぐ

入場無料 お誘いあわせの上、ご来場ください



お問い合わせ：福永 Tel 06-6833-9660
E-mail: fukunaga@amy.hi-ho.ne.jp

芦屋室内合奏団 第39回 定期演奏会



神戸ファッション美術館 オルビスホール

2005年 11月 20日(日)

開場 13:00

開演 13:30

昭和40年、芦屋市浜町の橋本邸に室内楽の演奏を趣味とする当時の学生が楽器を持ち寄り発足した当団も、早いもので本年で40周年を迎える事になりました。この間、メンバーも海外等へ転勤のため出たり入ったりを繰り返しながらも、室内楽の魅力のお蔭で何とかここまで続けることが出来ました。

今回は、弦楽合奏曲の中でも特に名曲の誉れの高いチャイコフスキーの「弦楽セレナーデ」をメイン曲として取り上げました。

永年にわたり当団を暖かく見守ってくださいますご来場の皆様方に、厚くお礼申し上げます。

2005 年11月 芦屋室内合奏団 団長 青柳 良
団 員 一 同

PROGRAM

J. ラター 弦楽のための組曲

- I. さすらい II. 私の青いボンネット
III. オーウェリー IV. アイロンをかけまくる

G. タルティーニ トランペット協奏曲 二長調

- I. グランディオーソ II. アンダンテ III. アレグロ・グラツィオーソ
トランペット独奏 笹川英哉

♪ 休憩 ♪

A. ウェーベルン 弦楽のための緩徐楽章（1905年）

P. チャイコフスキー 弦楽セレナーデ ハ長調 作品48

- I. ソナティナ形式の小品 II. ワルツ
III. エレジー IV. フィナーレ（ロシアの主題による）

指 揮：酒井睦雄 芦屋室内合奏団

■ J. ラター 弦楽のための組曲

ジョン・ラター(John Rutter, 1945－)は、特に多くの合唱作品により知られているイギリスの作曲家、指揮者。ケンブリッジ・シンガーズを結成、また専用レーベル Collegium Records も設立するなどの活動をしています。現代作曲家ながら美しく暖かい作品を生みだしています。

「弦楽のための組曲」はフォークソングに基づいた曲集で1973年作。

一曲目「さすらい」 さすらっているのは人だろうか渡り鳥か？動きが軽快でイメージが膨らみます。「私の青いボンネット」弦楽器を使った合唱のような柔らかなハーモニー。原曲の歌詞は、一緒に踊って欲しい彼は航海中、私のポルカの帽子も淋しくしている・・・ヴァイオリンのトリルで青い縁飾りが揺れているのが見えますか？「オーウェリー(O waly waly)」スコットランド語でああ悲しいの意味。失恋の歌を、ヴァイオリンソロがたっぷりと歌います。フィナーレ「アイロンをかけまくる」題名通り躍動する曲(原歌詞は早口言葉)で後半はフーガになっています。

■ G. タルティーニ トランペット協奏曲 二長調

ジュゼッペ・タルティーニ(1692-1770)は、イタリアのヴァイオリンの名手で作曲家。ある夜、夢枕に悪魔が立ちヴァイオリンの驚くべき演奏を聴かせた。目覚めるとすぐ悪魔が弾いたフレーズを書きとめた。ヴァイオリンソナタ「悪魔のトリル」の有名なエピソードで、タルティーニといえはこの曲が浮かびますが、ヴァイオリン協奏曲 130 曲、ソナタ 200 曲も作曲したということです。

数ある協奏曲の中から、名手モーリス・アンドレが取り上げてトランペット奏者の重要レパートリーとなったのが二長調のこの曲。ピッコロトランペットと呼ばれるA管が使われ、そのクリアな音色が曲にマッチします。急-緩-急の三楽章。今回合奏譜を手に入れることができなかったため、ピアノ伴奏版からの福永精一氏によるオリジナルオーケストレーションで演奏いたします。

■ A. ウェーベルン 弦楽のための緩徐楽章 (1905年)

アントン・ウェーベルン(1883-1945)は、ウィーンの貴族の家系に生まれウィーン大学で音楽学を専攻、後にシェーンベルク、ベルクらと共に新ウィーン楽派と呼ばれる実験的・無調音楽作曲家の中核となります。十二音技法によるその作品はどれも難解ですね。晩年「子供がコンパスと定規を使って作曲する日が来るのも決して遠いことではない」とも語っていたそうです。

1905年に書かれたこの曲は初期の作品で調性があり、ワーグナー、マーラーに傾倒したのが頷ける濃厚な感情表現をもった音楽です。ウェーベルンの青の時代とでも言えるでしょうか。オリジナルは弦楽四重奏ですが、ジェラルド・シュワルツ編曲の弦楽合奏版による演奏です。

■ P. チャイコフスキー 弦楽セレナーデ ハ長調 作品48

ピョートル・チャイコフスキー(1840-1893)は、交響曲・バレエ音楽・協奏曲・室内楽・歌曲などあらゆるジャンルで名曲を残しています。幼時から音楽の才能はありましたが、ペテルブルグの法律学校を出て一旦は役人となります。しかしやむにやまれぬ音楽への愛情に駆られて作曲家への道にのめり込んでいったのでした。入り直した創立されたばかりのペテルブルグ音楽院では、遅れていたロシアの音楽界を前進させるため西欧の古典派を徹底的に教え込んでいました。チャイコフスキーの音楽にも、多分に西欧的な洗練された要素があるようです。

1880年作曲のこの弦楽セレナーデも名曲としてよく知られています。チャイコフスキーはモーツァルトをととても尊敬していて、この曲の構想にはアイネ・クライネ・ナハトムジークなどモーツァルトの小合奏曲の魅力が背景にあると言われています。

4つの楽章それぞれに透明な輝きや、回想、憧憬が織り交ぜられていて、晩秋に相応しい音楽です。昨年当団は、ドヴォルジャークの弦楽セレナーデ(1875年作曲)を演奏しました。ほぼ同時期に作られたこの2曲は、「弦セレ」の両横綱と言えるでしょう。

R.O.

■笹川英哉 Hideya Sasagawa トランペット

大阪府出身。私立洛南高等学校を経て、2004年相愛大学音楽学部卒業。同大学卒業演奏会、YAMAHA管楽器新人演奏会に出演。これまでに有馬純昭、早坂広明、竹原明、椿弘の各氏に師事。

■酒井睦雄 Mutsuo Sakai 指揮

桐朋学園高等学校音楽科を経て 1971 年桐朋学園大学卒業。指揮を斎藤秀雄、秋山和慶両氏に、クラリネットを北爪利世、二宮和子、F. フックス各氏に師事。71 年より相愛オーケストラ指揮者、77 年ザルツブルクにて O. スイトナー氏に師事。同年、東京にて S. チェリビダッケ氏のゼミナールに参加。2001 年には芦屋室内合奏団を率いてドイツのバンベルクにてバンベルク交響楽団団員とともにニューイヤーコンサート、ドレスデンにてフラウエン教会落成記念コンサート等を行い好評を博す。現在、相愛大学教授として音楽専門家の育成にあたる傍ら、74 年より芦屋室内合奏団音楽監督、岐阜交響楽団常任指揮者、90 年より高知室内管弦楽団指揮者をつとめる等、アマチュア合奏団の発展にも尽力している。

■芦屋室内合奏団

音楽監督 : 酒井睦雄
団 長 : 青柳 良
コンサートマスター : 鳥丸安雄
マネージャー : 福永精一
部 長 : 藤本恭子

ヴァイオリン	:	鳥丸安雄	藤本恭子	戸倉啓子	勝部 操
		三村誠子			
		福永千江子	青柳 良	田島光子	大内隆一
ヴィオラ	:	福永精一	音村圭一郎	竹内禮二	中田久仁子
チェロ	:	鳥丸直子	宮崎晴夫	堀田一之	
コントラバス	:	赤松里美(客演)			
チェンバロ	:	小津久子			

次回演奏会のお知らせ ♪♪♪ 芦屋室内合奏団 第40回 定期演奏会 ♪♪♪

2006年 11月 19日(日) オルビスホールにて

■ 日程、会場は変更になることもございますので、ご了承ください ■